

がんばる工織大生 Active KIT students

KIT環境サークル「あーす」

地球上に生きる誰もが無関係ではられない環境問題。その課題に、身近な視点から向き合う団体があります。それが、KIT環境サークル「あーす」です。サークルの代表を務める百々彩乃さん（応用化学課程2年次）、新プロジェクトを率いる清水覚史さん（同）に活動内容や取り組みへの思いを語っていただきました。



Fig.1——左から清水さん、百々さん



Fig.2——プラスチック削減のために設置したウォーターサーバー

——「あーす」の活動内容について教えてください。

百々 「あーす」は2025年で設立4年目となる、比較的新しい団体です。「デザインの力で、地域の方々に環境問題をより身近なものとして考えてもらおう」。そんな目標を掲げ、最初はデザイン・建築分野の学生たちを中心にスタートしました。当時のメンバーが「大学生の自分たちにはできることはなんだろう?」と考えてまず取り組んだのが古着回収でした。松ヶ崎学生館という学生寮があるのですが、春には入居者の入れ替わりがあり、多くの服が捨てられます。そこに着目して退去者のいらなくなった服を回収し、必要な人に提供するという活動を行ってきました。古着回収は今も主要な活動の一つで、活動場所はさまざまな地域に広がっています。その他、キャンパス内における傘シェアリングの推進や、ウォーターサーバーの設置によるマイボトル利用の促進といった新しいことにもチャレンジしています。

清水 最も新しい活動としては、ミツカンさん（株式会社 Mizkan Partners）と連携して、フードロスへの意識向上を図る取り組みが2025年から始まりました。私はこのプロジェクトのリーダーを担当しています。ミツカンさんに工織大の卒業生がおられて、「学生と一緒に何か活動できないか」と声を掛けてもらったのがきっかけです。具体的な活動としては、家庭で余っている食品を回収するフードドライブを実施。古着と違って食品の場合は回収できるものの制約が厳しく、想像以上に苦労しました。夏休みにはミツカンさんの本社に伺って社員さんと意見交換をしたり、交流を深めています。今後も活動を広げていく予定ですので、ぜひご期待ください。

——入部のきっかけ、活動のやりがいについて教えてください。

百々 私の場合は、1年次の時に受講した「地球環境論」という授業がきっかけでした。この授業を担当している布施

泰朗先生が「あーす」の顧問をされていて、初回授業の最後に宣伝があったんです。高校まではSDGsについて学びはしても行動には移せていなかったのが、実際に活動している先輩の話を聞いて、私も参加してみようと思いました。

清水 私は高校時代に社会科学部というクラブに所属していて、ボランティア活動に積極的に取り組んでいました。そして大学生になってどのサークルに入ろうか考えている時、近い活動をしている「あーす」を知り、入部を決めました。

百々 環境サークルと聞くと堅い印象があったのですが、実際に入ってみるとイメージを覆されましたね。自分たちで企画を考えて実践に移せる、自由なサークルです。物事を考え抜く力や、地域の方と交流する力など、普通の授業ではなかなか得られないスキルを身に付けられています。学生の視点でできる小さなことを積み重ねることで、イベントが大きくなっていったり、自身の成長を実感できたりするのがやがいです。

清水 フードロス意識向上の取り組みもそうですが、ゼロから企画を考えてチャレンジするので、分からないことの連続です。それでも「難しそうだな、無理そうだな」と諦めるのではなく、とにかくやってみる。壁にぶつかったとしても、「ここに壁があるんだな」と分かり、それ自体がとても貴重な経験となっています。まさに授業では得られない学びですね。

——改めて「あーす」のアピールをお願いします。

清水 ミツカンさんとの活動はまだ始まったばかり。この時期だからこそできる、面白い経験があります。企画を考えることに興味がある方はぜひご参加ください。

百々 環境という大きなテーマですが、「あーす」は自分たちでできることを一つひとつ考え、企画し、実行しています。環境問題へのハードルを下げて、みんなで環境について考える機会をさらに増やしていきたいですね。この考えに共感し、一緒に取り組んでくれる仲間もお待ちしております。

「大学生の自分たちができることはなんだろう?」
学生の等身大の目線で環境問題に取り組む。